

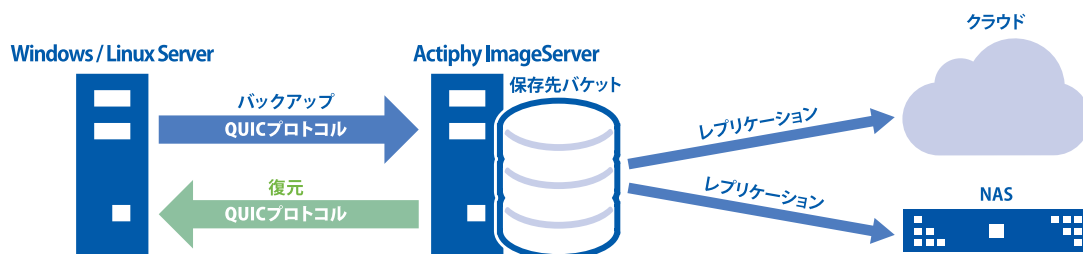
Actiphy ImageServer™

ActiveImage Protector™用の重複排除機能を搭載したバックアップストレージ

Actiphy ImageServer™は、ActiveImage Protector™専用の統合型バックアップストレージです。従来のActiphy ImageCenter™を機能拡張し、バックアップに必要なストレージ容量を大幅に削減する「重複排除機能」と、結合、レプリケーション、検証、起動確認などのイメージ管理タスクを効率的に運用できる「ワークフロー機能」を搭載しています。ストレージの有効活用とバックアップ運用の効率化を支援します。

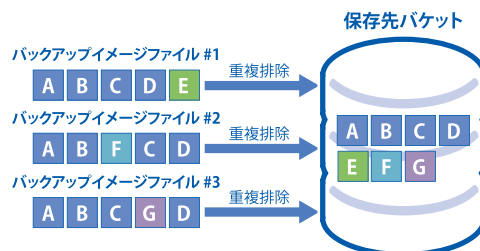
バックアップ専用最適化されたストレージ

Actiphy ImageServer™は、サーバー上に「バケット」を作成し、ActiveImage Protector™専用のバックアップ保存先として利用できます。ActiveImage Protector™とのバックアップ通信にはQUICを使用するため、バケットへの保存にWindows共有を経由する必要がなく、保存先を共有フォルダーとして公開せずに構成できます。また、バケットへのアクセスには専用の認証情報を使用することで、バックアップデータを安全に管理できます。さらに、ネットワーク共有やクラウドストレージをレプリケーション先として利用でき、バックアップデータを別の保存先へ複製して保護できます。



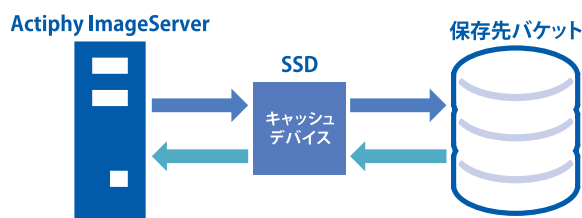
保存先バケットのストレージ容量を大幅に削減

重複排除機能により、バックアップデータをブロック単位に分割し、すでにバケット内に保存されている同一ブロックを除外して保存します。これにより、同一データの重複保存を抑え、バックアップデータの保存に必要な容量を大幅に削減できます。また、ActiveImage Protector™の重複排除圧縮と組み合わせることもできます。



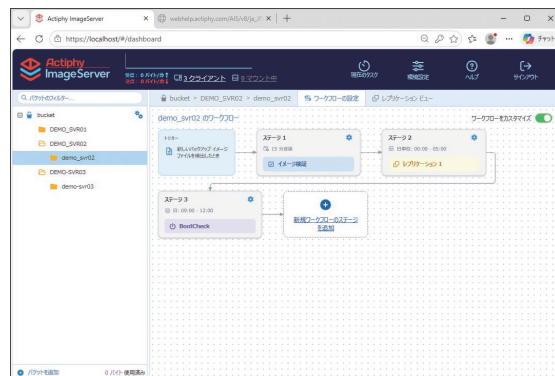
安定したバックアップ処理速度を維持

比較的低速なHDDストレージデバイスを使用する場合、書き込み待ちによってバックアップ処理に時間がかかることがあります。Actiphy ImageServer™では、保存先ストレージデバイスより高速なUSB SSDなどをキャッシュデバイスとして使用できます。バックアップデータの書き込みをキャッシュすることで、ストレージデバイスの書き込み性能による影響を抑え、安定した処理速度でバックアップを実行できます。



イメージ管理を効率的に運用

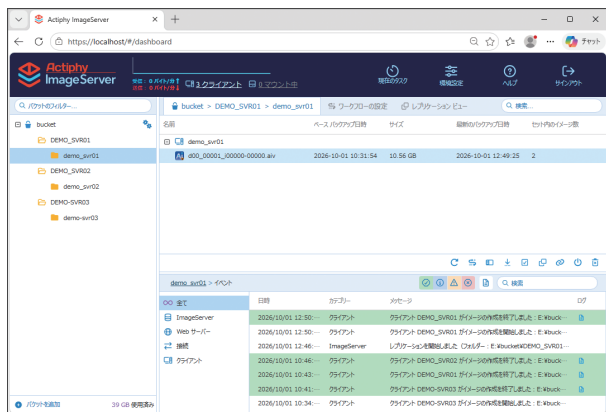
「ワークフロー」機能により、結合、レプリケーション、検証、起動確認などのイメージ管理タスクをステージとして登録し、処理順序や実行時間帯を設定できます。例えば、バックアップ後に検証、夜間にレプリケーション、週末に起動確認を実行するなど、目的に応じた処理を設定できます。ステージはドラッグ&ドロップで順番を変更でき、処理の流れを視覚的に管理できます。



バックアップストレージ機能

Webコンソールによる一元管理

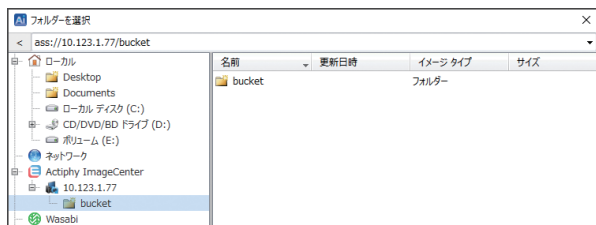
Webコンソールから、保存先バケットの作成、クォータ設定、使用容量、接続状況、タスクの進捗、イベント、履歴など、バックアップ運用に必要な管理を一元的におこなえます。コンソールへの接続は、セキュリティを考慮し、ユーザー認証に加えて、TOTP方式の二要素認証に対応しています。



ActiImage Protector™のバックアップ先として統合

ActiImage Protector™のバックアップ先として統合されているため、保存先を指定するだけで、クライアントのバックアップ保存先として利用できます。バケットごとに認証パスワードを設定でき、バックアップデータを安全に管理できます。

※バージョン 7.8.1 以下の ActiImage Protector からバケットを保存先に指定する場合は [Actiphy ImageCenter] から指定してください。



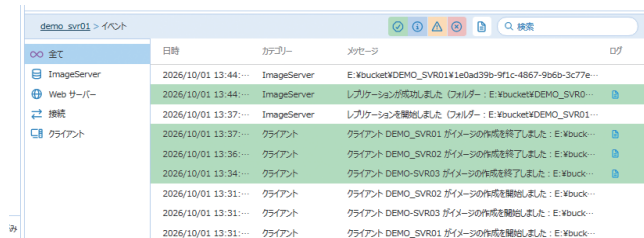
通信状況・接続クライアントの確認

現在接続中の各クライアントの受信・送信データ量を、一覧で確認できます。



各種イベントログの確認

コンソールのイベントペインから、クライアントの接続、バケットの追加・削除、バックアップタスクなどの状況や履歴を確認できます。



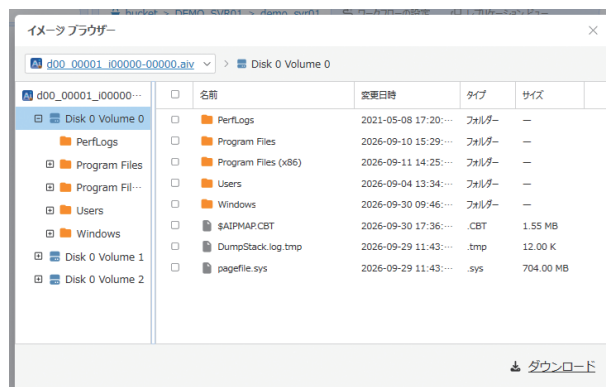
アラート機能

新規クライアントの接続、タスクの成功・失敗、バケットの空き容量不足などをメールで通知するよう設定できます。SSL/TLSに対応したメールサーバーを利用できます。



バックアップファイルのマウント機能

バックアップファイルをマウントして、通常のドライブと同じようにファイルやフォルダーへアクセスできます。必要なファイルだけを直接取り出すことができます。



イメージ管理機能

バックアップファイルを一元管理

Actiphy ImageServer™のコンソールから、増分バックアップファイルの結合、レプリケーション、検証、起動確認を一元的に管理できます。さらに、「ワークフロー」機能により、複数のイメージ管理タスクをステージとして登録し、処理順序や実行時間帯を設定できます。

幅広いレプリケーション先を利用可能

ローカルストレージ、共有フォルダー、クラウドストレージなど、用途に応じたレプリケーション先を選択できます。レプリケーション方法も、最新世代のみ、増分バックアップのみ、保存先との同期など、柔軟に設定できます。

レプリケーションデータを比較・管理

「レプリケーションビュー」により、レプリケーション元とレプリケーション先のバックアップイメージセットを比較し、データの有無や相違を確認できます。必要に応じて、レプリケーション元とレプリケーション先の間で、バックアップファイルのコピーや削除をおこなえます。

名前	ソース更新日時	サイズ	ステータス	ターゲット更新日時	サイズ
demo_svr01					
d00_00001_00000-00000.slv	2026/10/01 10:43	10.6 GB	完了しました	2026/10/01 10:43	10.6 GB
d00_00001_00001-00001.slv	2026/10/01 12:50	273.1 MB	完了しました	2026/10/01 12:50	273.1 MB
d00_00001_00002-00002.slv	2026/10/01 13:00	13.1 MB	完了しました	2026/10/01 13:00	13.1 MB
d00_00001_00003-00003.slv	2026/10/01 13:04	10.3 MB	完了しました	2026/10/01 13:04	10.3 MB

バックアップの検証

バックアップが作成時から改ざんされていないことを確認できます。

増分バックアップの結合処理

増分バックアップを結合して整理することで、バックアップデータを効率的に管理できます。結合処理では、最新の増分バックアップを残す数などを設定でき、設定した条件に従って古いバックアップを自動的に整理できます。

新規ワークフロー ステージ: Image Consolidation

ステージ名: Image Consolidation

フォルダー名: demo_srv01

フォルダーパス: E:\bucket\DEMO_SVR01\1e0ad39b-9f1c-4867-9b6b-3c77e78137ae_DEMO_SVR01

フォルダー容量: 45GB/1788GB

スケジュール 結合

☒ 結合を実行する

☒ 新しい増分イメージファイルが 5 個作成されるたびに実行する

☒ 最新の増分イメージファイルを 30 個残す

☒ 元のイメージファイルを保持する

☒ 次の結合まで ☐ 保持期間: 15 日間

☒ 結合された増分イメージファイルを再結合する

結合された増分イメージファイルを 15 個残す

☐ Eメールの送信: タスク成功時

☐ 失敗してもワークフローを続ける

キャンセル ステージの追加

バックアップの起動確認

バックアップから実際に復元することなく、ローカルまたはリモートのHyper-Vホストを指定して、バックアップが正常に起動できることを確認できます。

新規ワークフロー ステージ: BootCheck

ステージ名: BootCheck

フォルダー名: demo_srv01

フォルダーパス: E:\bucket\DEMO_SVR01\1e0ad39b-9f1c-4867-9b6b-3c77e78137ae_DEMO_SVR01

フォルダー容量: 46GB/1788GB

スケジュール BootCheck

☒ BootCheckを実行する

ワーキングエージェント: HYPER-V01

BootCheck設定

タイムアウト: 5 分

☐ 失敗した場合、ひとつ前のイメージを試す

☐ セキュアブート

☐ Eメールの送信: タスク成功時

☐ 失敗してもワークフローを続ける

キャンセル ステージの追加